

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	老年看護学概論	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/>					
療養病棟を有する病院で看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
<b>《科目目標》</b> 学習目的：老年看護の対象および高齢者を取り巻く環境を理解し、看護の役割を学ぶ 学習目標：1. 老年看護の対象を理解する 2. 高齢者を取り巻く社会の動きと現状を理解する 3. 加齢に伴う体の変化や疾病をめぐる変化の特徴を理解する 4. 高齢者疑似体験を通し、老化に伴う心理を推測する 5. 高齢者の尊厳と権利擁護の考え方を理解し、高齢者のもてる力を引き出す 老年看護の基本を理解する					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験					
<b>《使用教材(教科書)及び参考図書》</b> ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者看護の実践 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者の健康と障害 メディカ出版 公衆衛生がみえる MEDIC MEDIA					
<b>《授業外における学習方法》</b> 課題学習					
<b>《履修に当たっての留意点》</b>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	高齢者の理解 (高齢者とは、高齢者の特徴と理解)			講義
2	2	加齢に伴う変化 (身体機能の生理的変化、心理・精神機能の変化、社会的機能の変化) 高齢者のフィジカルアセスメントの視点と主なアセスメントツール 高齢者疑似体験			講義・演習
3	2				
4	2				
5	2				
6	2	高齢者を取りまく社会 [高齢者の生活と家族、高齢者が生活する場、高齢者を支える制度 (高齢者の医療の確保に関する法律に基づく制度、介護保険制度、成年後見制度)、高齢者の死と医療・ケア]			講義
7	2				
8	2				
9	2				
10	2	高齢者看護の基本① [高齢者看護における倫理 (高齢者虐待・身体拘束)]			講義
11	2	高齢者看護の基本② [高齢者看護の特性、高齢者看護に関わる諸理論 (身体面に関する理論・老化理論、心理社会面に関する理論、高齢者看護に適用する理論・概念)]			講義
12	2	高齢者によくみられる疾患 (高齢者に起こりやすい疾患の特徴、高齢者に起こりやすい疾患)			講義
13	2				
14	2				
15	2	高齢者にとっての健康・高齢者とQOL			講義

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	老年看護の方法 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	2 年前期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/> 療養病棟を有する病院で看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
<b>《科目目標》</b> 学習目的：高齢者に起こりやすい問題を知り、予防という視点から看護の役割を考える 学習目標：1. 地域高齢者を支えている医療・福祉職とその役割を理解する 2. 介護が必要な高齢者を支える施設および通所施設を理解する 3. 高齢者に起こりやすい問題を知り、健康増進を支える取り組みを理解する 4. 健康を保ちながら生活する高齢者を知り、地域全体で健康増進を支える取り組みを理解する					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験					
<b>《使用教材(教科書)及び参考図書》</b> ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者看護の実践 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者の健康と障害 メディカ出版					
<b>《授業外における学習方法》</b> 課題学習					
<b>《履修に当たっての留意点》</b>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	多様な生活の場における看護(介護保険サービス)			講義
2	2				
3	2				
4	2	高齢者のヘルスプロモーション① 1) 高齢者の健康増進 2) 生活習慣病予防 3) 転倒予防 4) 認知症予防			講義
5	2	高齢者のヘルスプロモーション② 1) 地域で役割を持ち、活躍する高齢者を知る 2) 高齢者の健康を地域全体で支える取り組みを知る ＊瀬戸市高齢者福祉課の専門職の方の講話 ＊瀬戸地域福祉を考える会「まごころ」の方の講話			講義・演習
6	2				
7	2	高齢者看護におけるチームアプローチ			講義
8	1	高齢者のリスクマネジメント			

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	老年看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
<b>《科目目標》</b> 学習目的：慢性疾患や健康障害を持つ高齢者が、疾患や障害をもちながらもその人らしく生活を営むことができるように持てる力に着眼し、安心していきいきと暮らせるよう、安全面にも配慮した看護を提供するための知識・技術を修得する。 学習目標：1. 高齢者の6つの生活行動に焦点をあて、対象を捉える方法を理解する。 2. 栄養状態を改善、維持する方法の1つである経鼻経管栄養を、安全に行うための、知識・技術を修得する。 3. 排泄障害を来しやすい高齢者の排泄ケアを適切に行うための、知識・技術を修得する。 4. 事例から高齢者の生活を整える看護を考えることができる。					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験・課題レポート・ポストテスト・授業態度					
<b>《使用教材(教科書)及び参考図書》</b> 生活機能からみた老年看護過程 第4版 医学書院 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実際 メディカ出版 看護がみえる vol,2 臨床看護技術 メディックメディア					
<b>《授業外における学習方法》</b> 課題学習を行う					
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 課題レポートは、教科書以外の文献も活用する事。提出期日・時間厳守。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	老年看護の展開における考え方			講義
2	2	生活行動情報の着眼点(活動・休息)			講義
3	2	生活行動情報の着眼点(身じたく)			講義
4	2	生活行動情報の着眼点(コミュニケーション)			講義
5	2	生活行動情報の着眼点(食事)			講義
6	2	栄養管理：経鼻経管栄養カテーテルの挿入と管理			講義
7	2	経鼻経管栄養			演習
8	2	経鼻経管栄養			演習
9	2	摂食嚥下障害看護 *外部講師			講義・演習
10	2	生活行動情報の着眼点(排泄)			講義
11	2	排泄を支える看護(排尿障害、排便障害(排便)1)			講義
12	2	排泄を支える看護(排尿障害、排便障害(排便)2)			演習
13	2	生活行動に焦点をあてた看護(事例検討)			講義
14	2	生活行動に焦点をあてた看護(事例検討)			講義
15	2	生活行動に焦点をあてた看護(発表)			演習

令和6年度 授業計画（シラバス）

科目名	老年看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位(時間)	1(30)	開講時期	2年後期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
<b>《科目目標》</b> 学習目的：治療を必要とする高齢者の看護について理解を深め、その人らしい生活を支える看護を実践するための知識や視点、ケアの方法を理解する。 学習目標： 1. 各病期の治療を受ける高齢者の看護が理解できる。 2. 認知症をもつ高齢者の看護が理解できる。 3. 病態と生活機能に着目した、看護過程の展開ができる。					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験・課題レポート・ポストテスト・授業態度					
<b>《使用教材（教科書）及び参考図書》</b> ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者の健康と障害 メディカ出版 生活機能からみた老年看護過程 第4版 医学書院					
<b>《授業外における学習方法》</b> 課題学習を行う。					
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 課題レポートは、教科書以外の文献も活用する事。提出期日・時間厳守。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	治療を受ける高齢者の看護1（薬物療法）			講義
2	2	治療を受ける高齢者の看護2（急性期：手術療法）			講義
3	2	治療を受ける高齢者の看護3（慢性期：パーキンソン病）			講義
4	2	認知症看護1（病態・症状の理解・治療）			講義
5	2	認知症看護2（ユマニチュード・リラクゼーション）			講義
6	2	認知症看護3 ①（ADLの低下が起こらないようなケア・環境の工夫を考える）			講義
7	2	認知症看護3 ②（ADLの低下が起こらないようなケア・環境の工夫を考える）			講義
8	2	認知症看護4：治療・介護を必要とする高齢者の家族看護			講義
9	2	高齢者の終末期：終末期看護、意思決定支援			講義
10	2	老年看護過程：大腿骨頸部骨折の患者 事例展開			講義
11	2	老年看護過程：情報の分析①			講義
12	2	老年看護過程：情報の分析②			講義
13	2	老年看護過程：生活機能関連図			講義
14	2	老年看護過程：看護の焦点			講義
15	2	老年看護過程：看護の焦点（発表）			講義

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人・老年看護学実習 I	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	2 学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	2 年後期
担当教員： 専任教員		実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>			
<p>老年看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>地域で暮らす高齢者との関わりを通して、保健・医療・福祉チームの一員としての看護師の役割を学ぶとともに、予防的な視点を持ちながら高齢者が持てる力を発揮し、生き生きと暮らしていけるための知識・技術・態度を身につける。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>実習評価表に基づき評価する</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>授業で使用した教科書、資料等</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>実習に関わる講義の内容を理解しておく。</p> <p>特に加齢変化の特徴や高齢者の生きてきた時代背景について授業資料や文献を活用し、理解を深めておく。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>複数の施設で学ぶことができる機会である為、体調を整え、主体的に参加する姿勢を持つ。</p>					
<p><b>実習プログラム</b></p>					
実習期間	2 学年後期				
時間数	合計 90 時間				
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護保険施設で生活する高齢者の身体面、心理面、社会面の特徴と看護を理解する。</li> <li>2. 介護保険施設の機能と役割、多職種との連携を理解する。</li> <li>3. 予防の視点を持ち、施設入居者の生活機能に合わせた看護を実践する。</li> <li>4. 自宅から通所施設に通う高齢者の特徴を理解する。</li> <li>5. 通所施設の機能と役割、多職種との連携を理解する。</li> <li>6. 予防の視点を持ち、通所施設利用者個々の状況を考えた看護を実践する。</li> <li>7. グループホームの機能と役割、多職種との連携を理解する。</li> <li>8. 認知症高齢者の特徴と看護を理解する。</li> <li>9. 高齢者における看護のあり方について考察する。</li> </ol>				

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人・老年看護学実習Ⅲ	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	3学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	3年前期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/> 老年看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している。					
<b>《科目目標》</b> 実習目的：入院している対象を全人的にとらえ、健康上の課題を明らかにし、その人のもてる力を見出す思考を育て、看護実践能力を身につける。 また、継続看護の必要性とそれを支える多様な職種を理解する。					
<b>《成績評価の方法》</b> 実習評価表（評価基準表）に基づき評価する。					
<b>《使用教材（教科書）及び参考図書》</b> 生活機能からみた老年看護過程 医学書院 他					
<b>《授業外における学習方法》</b> 事前学習、課題学習を行う。					
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んでください。					
<b>実習プログラム</b>					
<b>実習期間</b>	3学年 5月～7月				
<b>時間数</b>	合計 90 時間				
<b>実習内容</b>	1. 加齢変化、疾病・治療の状況を把握し、生活への影響を捉える 2. 患者及び家族の意向・生活に焦点を当てた目標設定をする 3. 対象のもてる力が引き出されるような看護を実践をする 4. 高齢者の生活と健康を支える多様な職種を理解する 5. 自分の老年看護観を持つ 6. 看護専門職者として望ましい態度を身につける				